

SORA

web magazine 2019.aug. vol.115



PHILIPPINES *Travel* PUERTO GALERA

プエルトガララに PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII
日本人経営のダイビングセンターが誕生！
&最新情報！

フィリピンのマニラの真南に位置するプエルトガララ。まだ日本人ダイバーには馴染みの薄いエリアだが、徐々にこの海を知るダイバーが増え、今人気上昇中の海でもある。また人気の日本人経営リゾート・オリエントパールリゾートのモテル琴さんが、日本人向けのダイビングサービスをオープンした。より日本人好みの充実したサービスで、華やかなプエルトガララの海を堪能できるようになった。



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



プエルトガレラまでの行き方

深夜の羽田空港を出発。明け方5時にマニラ空港に到着。看板を持った現地オペレーターに迎えてもらい、そのまま空港からマニラ湾沿いを走り、車でシティタワーホテルまで。所要時間は約10分。日本語を話すガイドのトニーさんから今後の説明を受け、バスやフェリーのチケットを受け取る。バスが出発する8時頃まで、ホテルのロビーで待機。同じエリアにあるカフェで、コーヒーを飲み、wifiのパスワードをもらってネットをしたり、少しウトウトしながら休む。多少遅れ気味で到着したバスに乗り込み約2時間、11時ごろ港に到着。途中にトイレ休憩もあった。

ここから荷物が多い方は大変。ポーターがいないので、約500mほど荷物を持って歩いてゲートの入り口まで行く。途中に荷物のセキュリティチェックなどもある（この荷物を持つての移動を改善することをWTPは検討している）。指示されたゲートの、広い待合室で待つ。待合室にはミスタードーナツなどがあり、軽食を取ることもできる。今回12時半に出航予定だったが、実際に出航したのは13時前だった。12時過ぎにゲートがオープンして、乗り込みを開始。荷物が多いので最後に乗り込もうと待っていると、ポーターが声を掛けてきた（これは嬉しかった!）。で、カメラ機材とダイビングバッグを運んでもらう。やはりポート乗り場まで、少し距離がある。通常荷物ひとつのところ、かなり重いのをハンドキャリーさせたので、100ペソを渡した。

フェリーの航路だが、以前はサバンにも寄ったが、今はサバンに寄らずにストレートでムリエに来るようになったので、途中下船はなく、最終地点で降りることになる。ムリエ港に着いたら、オリエントパールリゾートのスタッフが看板を持って待ってくれているので、荷物も手伝ってもらって、トクトックに乗り込んで、約1分でオリエントパールリゾートに到着する。



PHILIPPINES *Travel*
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガレラ





憧れのキャニオンズへ！

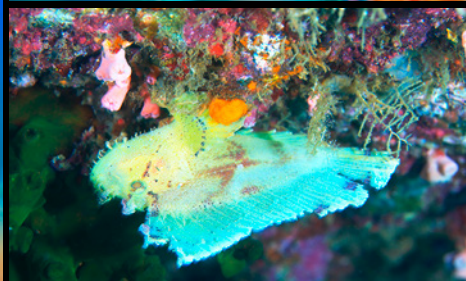
港からポートで10分くらい、プエルトガレラ半島の先端に位置するプエルトガレラを代表するポイント。5年ほど前に初めて訪れた時、外国人ガイドさんからは「ここは潮の流れがあって、ロウニンアジなど大物を見るポイントだよ!」と言われてエントリーしたが、実際に私の目に飛び込んできたのは、美しいソフトコーラルの群棲と無数のキンギョハナダイの群れだった。その規模はかなり広範囲で、その華やかさは他のフィリピンの海とはまた違ったピンクの賑やかな感じだった。私の前回の写真を見たフォト派ダイバーの数名は、ここにやって来ては何度もこのポイントに潜り、素晴らしい作品を撮影している。ファンダイバーというよりは、フォト派ダイバーには堪らないポイントであることは間違いない。私も前回の撮影のイメージと同じにならないように、ソフトコーラルの森を見つめる。シャッターを切るたびに、角度を変えるたびに、そうか、この撮り方があったか……、そうか、ここにヤギを配するとより鮮やかに演出できるなど、欲望が止まらない……。ただ、水深が30mほどの海底。ナイトロックスの32%を使用しているが、それほど長居はできない。そのため、後ろ髪をひかれる思いで浮上を開始する。また潜りたくなる、麻薬のようなポイントだと思う。





沈船ポイント・アルマジェーン

プエルトガレラで一番大きな沈船のポイント。2003年、レックポイントとして沈められた船で、歴史的な要因はない。水深30mに鎮座する。周囲は砂地で、明るい雰囲気がある。沈船には、ヤギやホヤなどもたくさん付着していて、そこに生き物たちも生活している。珍しいウミウシやハダカハオコゼ、そして、なぜかマッハで逃げて行ったオオモンカエルアンコウなどなど。沈船の影には、無数のキンギョハナダイが群れ、思いの外華やかな印象も受ける。ツバメウオが群れてますよ! とガイドさんに言われ、エントリーした外国人ダイバーが多かったが、その姿はどこにもなかった……。



マニラチャネル インサイド

マニラチャネルとバタンガスチャネルの2つのチャネルが並行している。その一つであるマニラチャネルのインサイドで潜る。ポイント全体としては、真っ白の砂地にパッチリーフが点在する癒し系のポイント。白い砂地の照り返しが、空間全体を明るくする。今回たまたまだと思うが、少し大きめのウミウシが砂地をよく歩いていた。砂地では、ヒレナガネジリンボウなどをガイドさんが見つけてくれた。浅瀬に上がると、多種多様なサンゴが迎えてくれる。ダイビングというよりは、少しスノーケリングのような浅い水深の視点で楽しんでいく。大きな造礁サンゴを見つけた。大きな楕円形で、まるで芸術家が作製した工芸品のようだった。潜れば潜るだけ、思いもよらない新しい発見がある。



あの大好きなモウミウシに会えるザ ヒル

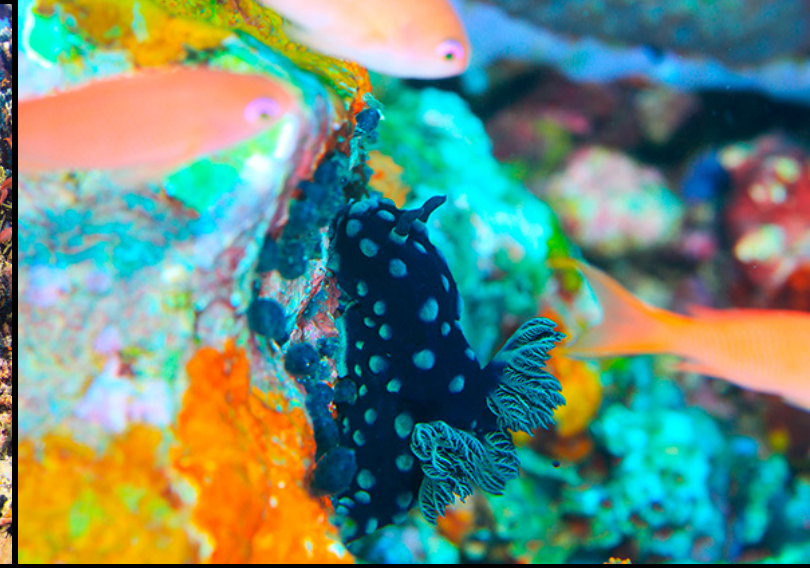
バタンガスチャネルの入り口部分にある湾内のマクロポイント。水深10mほどの砂地の海底をダイビングしていく。ここにエントリーした理由の一番は、モウミウシに出会うこと。モウミウシは、私が改めてウミウシを好きになるきっかけとなったウミウシ。顔の中央にゴマ粒のような目が2つついていて、それがつぶらでとても可愛い。このポイントの海底には、手のひら大の海草が生えていて、そこに住んでいる。今回見つけたのは2種類。大きさは、小指の爪の半分程度。でもよく見ると顔がある……（笑）。撮影しながら、私はその可愛さに軽く悶絶状態でした……（笑）。ガイドさん曰く、海草の5枚に1枚くらいはいるそうです。他にもたくさんのウミウシを見せてもらった。サイズ感の合わないナマコカクレウミウシを乗せたウミウシも笑った。あっという間の1時間でした。



初登場!! 参ったぜ! ベルディアイランドへ!

水面から小岩が3つほど顔を出す大きな根の周囲を潜っていく。根の周囲には、とにかくキンギョハナダイが乱舞している。比較するのは少し違うかも知れないが、コモドの大人気ポイント・バトゥボロンによく似ている。ただ、バトゥボロンよりも根のサイズは大きく、潮のあたりも強くないので自由に泳げることも多いが、根が大きいので、やはり数ダイブに分けて潜るのが良いと思う。根には、ウミウシが好きなホヤが見事に群棲していて、大きめのウミウシを簡単に見つけることができる。また根の表面には、アジアの海らしく、またフォト派ダイバーの心をくすぐるホヤやインギンチャクなどが彩りを添えている。それは本当に素晴らしく、ぜひ、未体験のフォト派ダイバーには潜って欲しい。人気のポイントのように他のボートも多く、海中はダイバーで賑わっていた。ただ中層を泳いでいるだけでも、もっとマクロの視点で楽しめば良いのに?と思うけど、正直、キンギョハナダイなどの群など、ワイドの景観が圧倒的なので、ただ浮遊しているだけでも、十分に楽しめるのだと確信した。外洋のポイントで港からボートで40分。基本的に透明度が高く、ワイドの景観を求める人が多いが、マクロも楽しい。行けるシーズンに限られ、3月から5月の海況が安定する時期がオススメ。1人でも行けるが、ボートをチャーターする感じとなり、ボート代が別途掛かる。

PHILIPPINES *Travel*
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガラ



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島





サバンレック

PHILIPPINES *Travel*
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガレラ

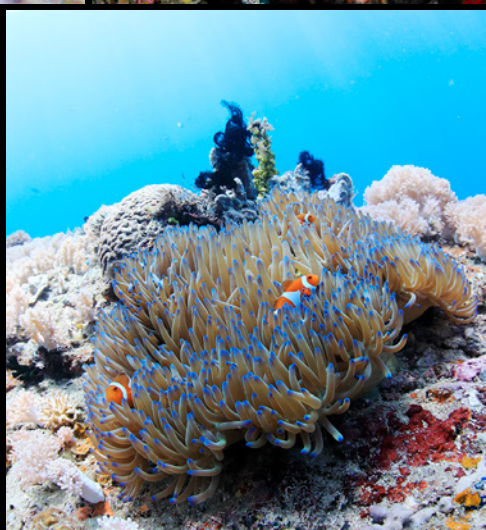
サバンのピキニバーのすぐ近くにあるポイントで、カラフルな街並みを見ながらエントリー。3隻ほどの崩れた沈船があるポイント

で、まず水深16mの沈船に。沈船と言っても船首の骨組みだけの感じで、周囲には、珍しくケラマハナダイが群れていた。沈船に隠れるハゼやウミウシなどを撮影しつつ、ガイドさんの後に付いていく。途中、共生エビが作った道筋で、砂地に隠れているメガネウオを発見。ハゼが目の前を通るときにバクッていく予定らしい……。水深17mで滞在できるのが13分ほど。緩やかな傾斜のポイントで、ゆっくりとマルチレベルで浮上しながらダイビングを続けていけるのでギリギリまで粘ったが、流石にそんな簡単に生態写真撮影は難しいか……。それにしても、メガネウオは頭がいいな。感心感心。そして、冷静に考えると、待ち伏せされることの怖さに背筋が凍った……。



シナンディガン ウォール

キャニオンズに行こうと思ったけど、全然潮が流れてなくて、ソフトコーラルの元気がなさそうなので、隣のポイントへ。外洋に面したなだらかな傾斜のポイントで、特に目立つのは、ウミシダの数。色とりどりのウミシダがたくさん群棲している。ガイドのマクマクが、大小様々なウミウシを披露してくれた。海底がカラフルなので、絵になるシチュエーションも多く、フォト派には嬉しい環境だと思う。トサカリウグウウミウシは、とにかく数が多く、餌となるホヤも多いので、自分でもどんどん見つけることができる。パッと海底を見ただけでも、三匹ほどが海底にいたりする。さすがにそこまで多いと有り難みが……薄れる。高い透明度、緩やかな傾斜なので、落ち着いた気持ちで進んでいくことができる。人気ポイントでもあるが、ここは、外洋に面しているので、潮の流れのない時にしか潜れない。落ち着いた環境の時に、ぜひ、リクエストして欲しいポイント。





ここは初級者用のポイントではなかった!! ホール イン ザ ウォール

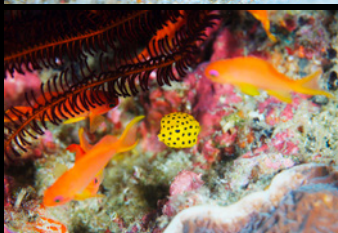
キャニオンの隣のポイントで、中級者がキャニオンズを潜る時に同じボートに乗った初級者は、ホール イン ザ ウォールにエントリーする。正直、潮の流れがなくて、キャニオンズに潜っても思い通りの写真が撮れないので、ここを選択。もしキャニオンズに潜れたなら、私の性格上、キャニオンズばかりに潜って、きっとここにはエントリーしなかったと思う。しかし、それが良かった。ホール イン ザ ウォールというポイント、決して初級者向けではなく、私たち中級者やフォト派を十分に楽しませる奥行きを持っていた。まず、ホール。ただのホールかと思っていたら、中にはキンギョハナダイがぐちゃりと居て、そしてシャイではない。カメラの前にどんどんと入り込む。ただ地形の写真だけ撮影できれば良いかな

と思っていたが、大違い。とにかく長い時間をホールの中で過ごした。その周辺の景色も良かった。大きなイソバナにはキンギョハナダイが群れ、ハナミノカサゴなどもいてくれて、なかなかサイケな景色を作っている。ホールの撮影をした後は、マクロでウミウシを撮影するのだらうな……と思っていたけど、全然マクロのカメラを使用せずに、最後の浅瀬までワイドの景色に夢中になっていた。



サバンポイント

サバンの町の前で潜る。最初は、明るい砂地に行くガイドのマクマクが、ウミウシをはじめ、いろんなマクロの生き物を教えてくれる。そして、ある地点に到着すると、向こうを指差す。何かな?と思うと、黄色いフエダイが群れをなしていた。なかなかそのような群れには会えないプエルトガレラの海では、この群れは貴重なのかもしれない。ゆっくり撮影して、今度は小さなドロップオフを降りようと言う。最初はハナビラクマノミを見せてくれる予定が、水深20mの海底に見事なアオウミガメが身悶えている(?)。何かと思い降りていくと、大きなヤギや海底に体をこすりつけて、痒いのか(?) 寄生虫を落としているのか(?)、そのような仕草だった。こんなことをされるとこのヤギにいたビグミーシーホースは、そりゃいなくなるな……と納得。とにかく大きなアオウミガメだった。あまり逃げるそぶりがないので、彼との自撮りも試みたけど、頬を寄り添うことはなかったですね……(笑)。

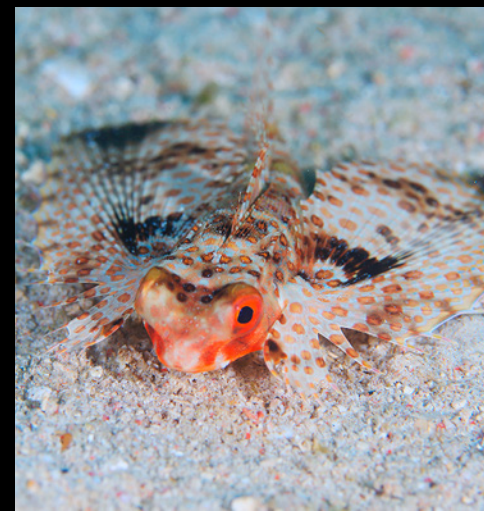


PHILIPPINES *Travel*
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガレラ



ララグーナポイント

こちらにもサバンにあるララグーナと言うリゾート前のポイント。水深16mほどの小さなプレジャーボートの沈船があり、そこが漁礁となり、生き物たちが集まっている。今回は、カミソリウオや手をクリーニングしてくれるクリーナーシュリンプを披露してくれた。別のパッチリーフでは、フラッシングするベラの姿も。砂地にはモンハナジャコの姿も多く、色々マクロの視点でも面白い。3日間ガイドのマクマクと潜ると、流石に鍵井がどんなものを撮りたいかな?を理解してくれていて、ウミシダが群棲し、キンギョハナダイが乱舞する小ぶりな根を紹介してくれた。そこで私は夢中で撮影……(笑)。最後、暮れ色の海中を進んでいくと、美しい枝サンゴの群生を見つける。撮影しているとメラネシアンアンティアスの群れがサンゴに彩りを添えてくれた。幸せな景色を最後に、全てのダイブを終了した。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつめていく島





PHILIPPINES Travel
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガラ



新しい！日本人経営の オリエントパールダイブセンター

2019年4月28日にオープンした日本人経営のダイビングセンター。ダイビングセンターの多いサバン地区ではなく、ムリエ地区に位置する（オリエントパールリゾートから徒歩2分のメインの港の隣）。特徴は、日本人グループ受けが可能になったということ。1隻のボートでも、レベルに合わせてグループ分けし、できるだけゲストにあったコース取りができるようにする。ローカルスタッフの3名は、プエルトガラ歴も長く、海に詳しい。アシスタントマネージャーのマイクは、初級者のケアに長け、レベルに合わせたグループ分けなどを担当する。マクマクは、ずっと海に潜っていた根っからのダイバーで、ウミウシなどのマクロの生物を見つけるのが得意。陸班の、寡黙だが優しいエンジニアのオデ。そして、日本人インストラクターが常駐する。ダイビングのスケジュールは、出航時間が8時半と10時半、お昼は14時と16時。ナイトダイビングはリクエストベース（最少催行人数はないが、1名の場合は、少し料金が高くなる）。キャニオンズやベルディアアイランドに行く場合、一人で行きたい場合でも追加料金で可能。レンタル機材やナイトロックス完備（+250ペソ）。



琴さんの笑顔が迎えてくれる オリエントパールリゾート&おすすめイタリアン

PHILIPPINES *Travel*
PUERTO GALERA
フィリピン・プエルトガレラ

ムリエ港より歩いて2分。サバンに比べて落ち着いた環境である、ムリ地区にあるオリエントパールリゾート。プエルトガレラで 13 年目を迎えるモテル琴さんが経営する。ゲストが快適に過ごすことを一番に考え、外国であるというルーズなサービスではない、日本人的なサービスをリーズナブルに提供する（例えば、ウォシュレットやタオル、シーツ交換などを含む）。全12部屋で、ベットはツイン、キングサイズ。広い室内はとにかく快適で、荷物の多いダイバーには嬉しい限り。食事は日本食がメインで、胃もたれした時など、ほっとした時に、摂りたい食事を取り揃えている。人気メニューはカツ丼、鳥唐揚げのネギすだれなどで、最近の人気メニューは親子丼だそう。朝食は、雑炊が人気とのこと。



ムリエのイタリアンレストラン・ロビス

イタリア人が経営する人気のイタリアンレストラン。ピザ、パスタ、カルパッチョなどが人気。ワインが豊富に並び、ワインセラーとしても有名。オープンエアの席と、エアコンのある部屋を選択できる。ハウスワインも秀逸で、1杯 80 ペソで、赤白楽しむことができる。ダイビングセンターとリゾートの間にあるので、ダイビング後、そのままここでワインを楽しむダイバーもいるとのこと……（笑）。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





PHILIPPINES *Travel* PUERTO GALERA フィリピン・プエルトガレラ

ムリエからトゥクトゥクで約15分で到着するサバン。ここはかなり賑やかな繁華街的な地区で、多くの観光客で賑わう。その中でオススメのレストランは、キャプテングレグ。1987年にプエルトガレラの海底から、トレジャーハンターのブライアンさんによって引き上げられた陶器などが展示してある、ダイバーには伝説的なお店。1991年のマリンダイビングの紙面にも3ページにわたって紹介されていた。おすすめメニューはフィリピン料理のブラスープだが、ヨーロッパ風にアレンジしたローストブラロ（写真は、サイズが大で 600 ペソ）が人気のメニュー。海沿いの気持ち良いお店。

アフターダイブでサバン&ホワイトビーチ

ムリエからトゥクトゥクで約20分で到着するホワイトビーチ。海岸線に向かう道では、屋台のようなおみやげ屋さんが並び、ショッピングも楽しそう。サバンのような賑わいがあるが、ファミリー連れのゲストも多く、ホワイトビーチの方が健全な感じがする（笑）。ビーチ沿いにはミニシアターのようなお店が並び、おかまのショーとファイヤーダンスを楽しめる。おかまのショーは、エンターテインメントでギャグ満載で、かなり楽しい感じ！ お昼はパラセーリングやジェットスキーなど、ダイビング以外のアクティビティが盛んなところで、フライトが遅い方は、このビーチで過ごすのも良いのかもしれない。

